日本産業衛生学会九州地方会ニュース
産衛九州

発行所　日本産業衛生学会九州地方会
〒890-8544　鹿児島市桜ヶ丘８-35-１
鹿児島大学医歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL（099）275－5289
FAX（099）265－8434
発行責任者：地方会長　堀 内 正 久

（題字：倉 恒 匡 徳　筆）

巻頭言

地方会理事就任に寄せて

大分大学医学部 公衆衛生・疫学講座　斉　藤　　功

この度、2023年３月より日本産業衛生学会九州地方会理事を拝命いたしました。

私は2018年10月に大分大学医学部公衆衛生・疫学講座の教授に着任し、今年で６年目を迎えます。2022年10月には九州地方会学会を大分県で開催させていただき、コロナ禍であるにも関わらず、本会員の皆様にはご参加いただき誠にありがとうございました。

一昨年の地方会（大分）では、地域資源の活用をテーマに企画を組みました。大分県では県独自の健康優良企業の選定を行うプロセスを動かすことにより、さまざまな地域・職域連携の推進が促されていく仕組みづくりが紹介されました。また、我が国の循環器疾患疫学の特徴と新たな動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022の紹介をさせていただき、職域での取り組みについて報告しました。

現在は産業医、大分県産業保健総合支援センター相談員、有機溶剤・特定化学物質作業主任者講習等に実務として携わり、微力ながら産業保健と地域保健とを掛け持ちしています。地域保健においては、健康増進法に基づく健康日本21（第三次）計画といった大きな柱が動いており、一方、産業保健分野では「化学物質の自律的管理」に基づく様々な規則の改正が行われ早期に健康被害を防ぐためより専門的な対応が求めれています。健康増進計画は、地域・職域全体を包括した計画であり、第三次計画の中には「保険者とともに健康経営に取り組む企業数」といった数値目標が設定され、地域・職域が一体となった取り組みが目指すべき姿として掲げられているように思われます。

2024年４月から医師の働き方改革が施行されます。これは医療法に基づき長時間労働の医師の労働時間短縮および健康確保のための措置の整備を病院長に義務付けているところです。同時に、事業所としても労働安全衛生法に基づき長時間勤務医師に対して健康確保措置をとる必要があり、２つの法律の間で業務の調整が行われているところだろうと思われます。また、医師の働き方改革は、医療法で定めるところの地域医療構想とも連動し、将来の人口減少を見据えた医療資源の適切な配分について議論することが求められています。しかしながら、医師の働きやすい環境を整備するといった建前とは反対に、医師の偏在を加速させ、高齢化の進んだへき地では医師不足が深刻化していくことも懸念材料として挙げられます。

ここまで述べたことは、最近５年間の動向です。このような目まぐるしい政策の動きに合わせて、新型コロナ感染症や世界中で発生している自然災害が直接的あるいは間接的に人々の健康に大きく影響を与えていることは疑いありません。

混とんとした世の中にあって、大学は人材を育て、社会のニーズに沿った研究を進めていかなければなりません。学会は「集いの場」でもあり、大局的に見ても大きな役割を果たしてきたと思われます。私自身、本地方会の責務が果たせるよう、努力して参りたいと考えております。

新入会や新しいポジションに就かれた方の声

新入会の御挨拶

白 土 大 成
（鹿児島大学 医学部保健学科 理学療法学専攻
基礎理学療法学講座）

この度、日本産業衛生学会に入会いたしました鹿児島大学基礎理学療法学講座の白土と申します。私は2018年に理学療法士免許を取得し、急性期病院にて５年間勤務した後、2023年より鹿児島大学に赴任いたしました。関心領域は、産業保健学、老年学になります。

日本産業衛生学会への入会は、2021年に開催された World Physiotherapy Congress 2021 Online（世界理学療法士連盟学会）にて急性期病院に勤務されている看護師の腰痛とプレゼンティーズムの関連について検討した内容を発表し、同連盟のサブグループの一つである世界産業保健理学療法連盟から優秀ポスター賞を頂いたことがきっかけです。その後同サブグループの理事長である Rose Boucaut 先生（Australia）にお声がけをいただき、執行委員の一人として、微力ながら2023年より組織運営に参画させていただいております。

昨年５月に開催されました第96回日本産業衛生学会では、中小企業勤労者における職業性ストレスとプレゼンティーズムとの関連と題した発表をさせていただきました。近年アブセンティーズムや失業を予防するために、プレゼンティーズムに焦点が当てられております。私は勤労者における健康の維持増進に加えて、健康上の問題があるにも関わらず、労働生産性が低下していない方々の特徴等に関心がございます。本研究は、中小企業勤労者を健康問題なし、健康問題ありプレゼンティーズムなし、プレゼンティーズムありの３群に操作的に分類し、職業性ストレスの観点から特徴の分析を行った内容になります。本研究は、現在国際誌に投稿中です。

また、昨年出版されました「働く人と「ともに創る」作業療法」（元廣惇・藤井寛幸（編著））では、「Chapter 2 働く人の「生産性」と「エンゲージメント」〈研究２〉」の章の執筆をさせていただきました。研究を通して得られた知見は、しかるべきタイミングで社会に実装していくことが重要と考えております。大変未熟者ではございますが、様々な取り組みを通し、適確なタイミングで成果を社会に実装できるように精進していきたいと存じます。

今後、国内外におけるつながりを基盤にしつつ、理学療法士としての視点も取り入れた勤労者の健康に寄与する研究、活動を推進したいと存じます。与えられた機会を謙虚に受け、社会への還元を念頭に取り組んでいきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

リカレントを通じて社会貢献の機会としたい

坂 本 健
（エダンズ株式会社）

2023年に日本産業衛生学会に入会をさせて頂きました。

経歴：国内製薬メーカーで、がん関連の基礎研究、学術（技術営業？）などを経験した後、外資系製薬メーカー数社で市販後の臨床研究支援（メディカルアフェアズ）に従事しておりました。現在は、エダンズ株式会社にて研究支援業務をする傍ら、昭和大学大学院で学生をしております。大学院は本年３月に無事卒業できる見込みで、４月からは研究生として在籍する予定です。いわば五十の手習いかもしれません。エダンズの本社は福岡ですが、私は都内でリモートワークをしており、本社ビルには行ったことがありません。しかし、過去、仕事の都合で計４年間ほど福岡在住だったことがあり、九州にはたくさんの思い出（ごま鯖、馬刺し、豚しゃぶ、黒霧島、地鶏など）があります。

学会入会動機：大学院入学時に「機械学習に興味があります」という相談をした際、後に私の博士論文を共同で執筆下さることになる恩師のおひとりが、産業保健 AI 研究会の Python 講習会を紹介下さったのがきっかけです。AI 研究会への参加は、原則として日本産業衛生学会の会員に限られています。また、エダンズの親会社はエムスリーですが、エムスリーグループ内で SaMD（プログラム医療機器）の治験を支援する機会などもあり、働く人の健康支援に関するデータ利活用のプロジェクトが増加し、私もスキルアップを求められています。

入会を通じて目指すもの：現在、私が業務として実施している、研究の間接支援のみならず、自分自身で主体的に研究を進めてゆきたいと漠然と考えております。学会活動では最新の研究成果が発表され、所属する大学院には豊富な知識と経験を持つ研究者が大勢います。私のようなただの一般人さえ、手元にはいま、高性能なパソコンがあり、低価格で仮想の演算環境にアクセス可能で、世の中には大量のデータが生成され続けています。

歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ氏の著書『ホモ・デウス』には、“現代社会は自由主義のパッケージに支配されている。しかし、科学者が人間のブラックボックスを開けると、魂も自由意志も「自己」も見つからず、遺伝子とホルモンとニューロンがあるばかりで、その他の現実の現象と同じ物理と科学の法則にのみ従っていた。生き物は本当

にアルゴリズムにすぎないのか？生命はデータ処理にすぎないのか？”とあります。我々のアイデンティティが単なる想像に過ぎないのだとすると、革新を続ける生成 AI で解釈できる範囲は非常に広いことになります。。。少し風呂敷を広げてしまいましたが、私は目下、機械学習のイロハを勉強中であり、趣味で可愛いアニメ画を生成している程度です。あるいは架空のアイデンティティを主張しているだけなのかもしれませんが、一歩ずつ研鑽を重ねてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

新入会の御挨拶

光　武　里　織
（佐賀県産業医学協会）

2023年に入会した光武里織と申します。佐賀県出身で佐賀西高、佐賀大学を卒業し、佐賀大学神経内科に入局し常勤および非常勤の臨床医としてずっと働いておりました。

2023年に産業医科大学で産業医学基本講座を受講し、産業医の資格を取りました。講義の内容は非常に充実しておりました。実習は実際の機器を使ったりグループワークや体を動かしたりなどとバラエティに富み、楽しく取り組めました。講義以外でお時間を作って話す機会を設けてくださった先生方もおられ、産業医についての理解や具体的なイメージが深まりました。産業医科大学の職員の方々も受講生がより快適に過ごせるよう細やかにご配慮いただき、安心して受講ができました。たくさんの方々にお世話になりながら無事修了することができ、本当にありがとうございました。少し勇気が要りましたが思いきって受講してよかったです。日本産業衛生学会の存在は、実は受講して初めて知りました。産業医として活動するならば入会したほうがよいと聞いたので入会することにしました。

現在、佐賀県産業医学協会に非常勤で所属し、嘱託産業医として働いております。患者さんの主訴や状況に応じて対応していく臨床医とは勝手が違い、毎回胃が重くなりながら事業所に向かい、精一杯業務をこなして終了後心底ほっとするという状況ですが、いろいろな方に助けていただきながら楽しく働いております。

産業医をやってみようと思ったのは、もともと公衆衛生に興味があったことに加えて、労働者個人の健康管理や健康維持増進という観点から予防的なアプローチができるのではないかという期待からです。脳神経内科では脳卒中を扱いますが、脳卒中はご存じの通り生活習慣の影響が大きく、軽く済む方もいれば発症後に以前の生活に戻ることが困難な状況になる方もいます。実際にそういう方々の治療に当たってきた経験をふまえ、実際に脳卒中を起こす前に産業医として予備軍の方に働きかけることができるといいなという希望があります。

また、どうやったら健康でいられるのだろうかということについても興味があります。おそらく自然から離れれば離れるほど病気が近くなるという法則はあり、便利さとうまく付き合いつつ健康を保持してく努力が必要なのだと思います。さらに、心身相関といわれるように精神面の影響も大きいと思います。化学物質の自律的管理が導入されたように、個人の健康管理についてもより自立した姿勢が必要なのではないかと患者さんと向き合う中で感じます。とはいえ日本の労働人口の約３人に１人が何らかの疾患を抱えながら働いています。産業医として、働きたい人がよりよい状況で働き続けられ、それを通じて地域や社会がより良くなるお手伝いができればと思います。

産業医の業務は多岐にわたりますが、少しずつ学んでいこうと思います。よろしくお願いいたします。

新入会のご挨拶

相　原　裕　子
（仁愛会浦添総合病院 健診センター）

このたび、産業衛生学会に入会し、九州地方会に新規加盟させて頂きました、相原と申します。卒後５年間、内科医として勤務したのちは主に健康診断機関に在籍し、健康診断、がん検診、生活習慣病予防や特殊健診等に携わって参りました。現在、沖縄県浦添市の仁愛会浦添総合病院健診センターに所属しております。３年前より縁あって嘱託産業医として活動することとなり、製造小売り業、建設・設計業、警備、宿泊業、学校・教育機関、電気設備業、輸送業など、様々な業界の事業所に出向かせて頂いております。

訪問先ではまず、やはり長時間労働の問題が多いと感じています。面談をさせて頂き個々人に対し事後措置の対応をしていますが、大きく会社の長時間労働の状況を改善している実感の持てない時、産業医の仕事はこれという正解のない仕事であるなと感じます。当初、各事業所によって時間外労働削減への取り組みに温度差を感じ、なかなか進まない事業所に対しもどかしさを抱いていましたが、実情としてはその背景に社会的に問題となっている人手不足や、IT 技術などを用いた事業効率化の進み具合、掛けることのできる資金面の問題なども影響しており、単純な問題ではないと分かるようになりました。この経験から、医学だけでなく社会情勢や新たな情報技術、コストへの意識など常に広い社会的な視点や知識も背景として得ていき、会社や総務担当の方たちと協議・協力することでより良い職場

環境を従業員の方たちへ提供していけるようになりたい思うようになり、同時に正解が無いからこそ産業医の仕事は奥深いのだと思うに至りました。

また、メンタルヘルスの問題への対応もやはり多くを占めています。入社年数の浅い長時間労働の方の面談で、疲労蓄積チェックシートの点数と比較しやや表情が硬く、より強い疲労蓄積を疑った方を上司の方に報告し注意して対応するよう依頼し、翌月もフォローの面談を入れるなどして対応したところ、数か月すると残業状況も改善され本人の表情も明るくなった時はやりがいを感じました。一方で、平素周りも特に不調に気づくことのなかった社員の方が職務に関連してストレスを抱え急激に大きなメンタル不全を起こされたこともあり、もっと事前に予防するための体制作りが出来なかったものかと考えさせられたケースもありました。

様々な職場にはそれぞれに様々な問題が横たわっており、医学的な内容は当然のこと、他にも様々な相談を受ける事があり、期待度の大きさも身を持って感じております。そのような中で、系統立ててしっかりと学び、短い嘱託の訪問時間の中で優先順位を付け効率的に事業所での問題に対処する力を付けたい、職場の労働衛生管理体制の構築力を付けたいとの思いで入会させて頂きました。皆さまが取り組まれている事例や研究を大いに参考にさせて頂き自己研鑽を積みたいと存じます。今後、ご指導ご鞭撻宜敷お願い申し上げます。

働く人の健康支援
―看護職の立場から―

塩　満　智　子
（鹿児島国際大学 看護学部看護学科 公衆衛生看護学分野）

今年度の４月から鹿児島国際大学に新設された看護学部の教員として着任いたしました。私の研究テーマは、「働く人の健康づくり」です。現在、テレワーク労働者の運動機能向上プログラムの開発に取り組んでいます。大学教員になる前は、保健師として健診機関や健康増進施設にて、主に生活習慣病予防や介護予防に関する事業を担当しておりました。中高年者の方々と接する機会が多く、健康相談や保健指導を通して、自分の心や身体のことを後回しにしがちな働く世代の健康づくりの大切さと難しさを感じていました。その時の経験や思いが、今の研究テーマにも繋がっています。

働き方改革により、高年齢でも治療中の疾患があっても、働くことができるようになってきており、このような労働者は今後ますます増加すると考えられます。看護職は、健康相談、仕事と治療の調整支援、就労継続や職場復帰の際の関係者の調整等を担うことができるため、労働者が安心して就労を継続できるような支援において果たす役割は大きいと考えます。しかし、事業場への看護職の配置に法的な義務づけはないため、看護職を配置している事業場はまだ多くありません。

私はコロナ禍を関東で過ごしたのですが、実習を通して、事業場で活躍している産業保健師の方々と出会うことができました。テレワークが推奨される中、これまで対面で取り組んできたメンタルヘルス対策や生活習慣病対策は、産業保健師のオンラインによる健康相談や健康教育等によって継続されていました。地域によって働き方や健康課題の違いがありますし、産業看護職の配置については、事業場の規模や人材確保等の課題もあります。そのため、地域の状況に応じて、働く人の健康を支援する体制づくりができればよいと考えます。

看護職には看護師、保健師、助産師がいます。就業場所も多様なため、様々な場面で、様々な健康レベルの人々の健康支援に関わることができるという強みがあります。しかし、本学会における鹿児島の看護職の会員は少ないと伺いました。私の所属は大学ですが、職域に限らず、行政、医療機関等に所属する看護職の方にもぜひ会員になっていただき、今後、繋がりを広げていくことができればと思います。また、様々な関連職種の方々とも協働していくことができますと幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

部 会 報 告

医 部 会

小田原　　努
（(公社)鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島）

令和６年は、大きな災害や事故が立て続けに起こり、不安な年明けとなりました。亡くなられた方々には、謹んで哀悼の意を表します。

本年度の九州産業医部会の研修会は、令和６年１月20日に福岡市の TKP ガーデンシティ博多新幹線口　プレミアムホールにて開催いたしました。今回は、産業医学推進研究会九州地方会や、日本産業衛生学会九州地方会産業保健看護部会の共催を得て、産業医学推進研究会九州地方会研修会との二部構成で行いました。医部会の研修会は、第一部として、13時30分より、独立行政法人労働者健康安全機構　労働安全衛生総合研究所　吉川　徹先生をお招きし、「働き方改革～特に陸上貨物運送業と建設業を中心に」というテーマで講演をいただきました。2024年問題として、この１年近くマスコミで取り上げられるようになっている陸上貨物運送業等の自動車運転手や、建設業の作業者の時間外労働時間の上限規制をめぐる現状や、今後考えられる課題等を整理して聞くことができました。吉川先生は、過労死等防止調査研究センターで、個別の過労死事案を精査される立場でもありますが、いくつか事例を紹介していただきました。その中で、貨物運送業のドライバーの過酷な業務状況を知ることができました。特にドライバーは、運行管理者のいわれるがままに、無理なスケジュールも反対できる立場でもなく、業務をつづけて過労死されるケースがあり、やはり目をそらしてはいけない問題だと強く思いました。この働き方改革で、運送費用が上がったり、到着までの時間が長くなる可能性はありますが、運転手の待遇改善に役立つことが最も大切ではないでしょうか。建設業もトラック業界も零細企業が多く、産業保健のなかなか届かない対象です。吉川先生のチームは、実装研究として、業界団体の力を借りて小規模事業所への、健康管理の関わりを勧めていらっしゃいますが、良いモデルケースになることを祈願しています。

研修会は、全体で35名の参加があり、皆様熱心に聴講されていました。

今後も身近なテーマを見つけて、研修会を開催していこうと思います。

看 護 部 会

中　谷　淳　子
（産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学）

産業保健看護専門家制度 継続教育研修会を2023年９月２日(土)に開催しました。テーマは「動機づけ面接ワークショップ～産業保健職における面接力向上～」とし、一般財団法人佐賀県産業医学協会理事長である後藤英之先生を講師に、加えて同協会から２名のファシリテーターにもご参画いただき対面でのワークショップ形式で行いました。はじめに動機づけ面接の基本姿勢である「ガイド」としてのアプローチの重要性や、動機付け面接の根幹となる４つのスピリット「パートナーシップ」「受容」「思いやり」「引き出す」について具体例を交えて解説いただいた後、実践に必要な４ステップ①関わる、②フォーカスする、③引き出す、④計画するに沿ってレクチャー、実践、フィードバックを繰り返しながら実習しました。後藤先生の講義は常にインタラクティブで、自分の普段の面接の姿勢や技術を振り返る機会が多く設けられており、最後まで前のめりで参加することができました。参加者は20人で産業保健

看護職としての経験が浅い方からベテランまで背景は様々でしたが、グループワーク中心だったこともあり和気藹々且つ真剣に学び合う姿が見られ、対面による実習の良さを実感することもできました。事後のアンケートでは、「満足」との回答が100%、また「理解が深まったか」「自身の業務で活用できそうか」の質問にも100%が活用できる（“やや活用できる”を含む）「理解が深まった（“やや深まった”を含む）」と回答されました。自由記述では、「今から改めて勉強したい」「自分勝手になっている指導方法を見直すことができた」「保健指導の研修が久しぶりで新鮮だった」などのほか、有意義であったというコメントを多くいただきました。

今後の活動としましては、2023年度日本産業衛生学会 九州地方会 産業保健看護研究会を2024年１月20日（土）に、NAOSH コンサルティング・労働安全衛生総合研究所 中原 浩彦先生を講師にお招きして開催します。テーマは「『産業保健看護職のための化学物質管理』～初めてでも理解できる自律管理の基礎から実践まで～」とし、産業保健看護職として必要な化学物質の自律管理の基礎から実践知識を、講義と演習を通して習得することを目的としています。次号で開催のご報告をします。

最後に、学会全体の話題ではありますが12月３日（日）に東京の有明医療大学にて産業保健看護専門家認定試験が行われました。本誌が発行される頃には九州からも新たな専門家が誕生していることでしょう。質の高い産業保健看護活動を社会に提供していくために、一人でも多くの登録者や専門家、上級専門家が生まれるようこれからも研鑽の機会を作ってまいります。また、今後も会員の皆様との情報交換、ネットワーク作りを進めて参りますので、活動の在り方など広くご意見をお寄せいただけると幸いです。

歯科保健部会

谷 口 奈 央
（福岡歯科大学）

10月に行われた日本産業衛生学会産業歯科保健部会第２回幹事会で中国産業歯科保健部会から第97回日本産業衛生学会（2024年５月、広島市）準備状況の報告があり、「がんと口腔健康管理」（教育講演）、「産業歯科保健におけるアブセンティーズムとプレゼンティーズム」（フォーラム）、「サイエンスに基づく歯科疾患予防～国民皆歯科健診を見据えて～」（研修会）などが企画されていました。第100回日本産業衛生学会に向け、九州産業歯科保健部会も他部会との連携を深めさらに活動を強化していく必要があると改めて強く思いました（歯科保健部会では略称として先頭に地方名をつけます）。

歯学部学生教育の充実も課題です。９月末に行われた第51回産業医学講習会（日本歯科医師会主催）に参加し、九州地方会歯科保健部会の正式な活動開始の際にもご相談させていただいた東　敏昭先生をはじめ、保利　一先生、堀江正知先生、江口　尚先生、榎原　毅先生、といつも大変お世話になっている産業医科大学の先生方の講義を拝聴し、産業衛生の基礎から最新トピックスまで勉強することができました。講習会で得た知識を歯学部教育の充実に役立ててまいります。産業衛生領域の歯学部教育といえば、埴岡　隆先生（宝塚医療大学）が９月初旬に大分市で開催された九州口腔衛生学会の基調講演１において、「健康寿命の延伸は職域と地域をつなぐ産業歯科保健から－歯学教育クロニクルからみたニューノーマルへの挑戦－」というタイトルで、歴代の歯学部教科書の産業保健のページ数と内容の変化について調べると、記載内容に大きな変化はないものの概念は「産業」から「職域」「労働者主体」へ変わってきていることを紹介され、これからの産業保健で歯科に求められることを考えるヒントをお話されました。続いて基調講演２では、九州地方会からご紹介いただいた垣内紀亮先生（ダイハツ株式会社）が、「産業保健領域における歯科衛生の新たな展開－産業医からみた歯科医師に期待される役割について－」というタイトルで、実際の産業医の職務のご紹介と歯科医師に期待される役割についてお話をしてくださいました。日本口腔衛生学会は産業歯科保健に興味のある会員が多いものの、現場を知る人は多くありません。本企画は大変好評で、佐賀県歯科医師会はその後、垣内先生に勉強会の講師を依頼されたようです。情報発信の効果に手応えを感じ、大変嬉しく思いました。

令和５年度九地連（九州地区連合歯科医師会）公募研究事業「九州拠点企業ならびに酸等を取扱う中小工場における歯科保健活動の実態・意識調査」を進めるなかで、九州地方の産業歯科活動の情報収集・発信の中心としての歯科保健部会の存在意義を強く感じております。11月の地方会学会での歯科保健部会自由集会では加藤貴彦先生（熊本大学大学院）を囲み、昼食をとりながら部会の今後の活動の方向性について議論しました。２月４日には講師に加藤先生と藤田雄三先生（初代産業歯科保健部会長）を招いて令和５年度第２回研修会を開催します。詳細につきましては、次号でお知らせいたします。

技 術 部 会

宮 内 博 幸
（産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座）

令和５年度 九州産業衛生技術部会研修会が10月21日に産業医科大学にて約100名の参加者のもと開催されました。研修会タイトルは「これからの化学物質管理と安全衛生活動」というテーマにて現地およびオンラインで開かれました。

基調講演は「私の化学物質管理などの産業保健の研究と取組み」と題し、原邦夫先生（産業医科大学）より講演を賜りました。基調講演では、大気汚染の分析や職場の空気中の有害物質の測定、多環芳香族炭化水素類の曝露、シックハウス症候群、職場の曝露推定および化学物質のリスク管理など、約40年にわたる長年のご研究の知見から、化学物質の自律的管理のありかたについて、貴重な提言を賜りました。特に、自律的な安全衛生

活動を進めるにあたって、産業衛生技術専門職をどう育てるか、参加型職場改善活動の実践経験に基づいた自律的化学物質管理アクションチェックリストによる小規模事業場の支援方法など、現場にどう貢献できるかという視点から示唆に富む内容でした。

続いて、安全衛生専門家からの提言として「測定士や安全衛生スタッフのこれから」と題し、４名の演者より講演が行われました。松本茜子氏(一般財団法人西日本産業衛生会　環境測定センター)よりは、作業環境測定機関は、従来通りの特別則の測定だけを行うのではなく、改善提案やリスクアセスメントの支援ができるようになることが重要との提言を頂きました。三好一成氏(西日本旅客鉄道株式会社広島健康増進センター)よりは、在来線や新幹線の車両所での自社測定の現状として、法令対象外の物質・作業場も測定していること、測定結果報告会で改善提案を行っていること、自律的化学物質管理のための幅広い知識を身に着けていくことが重要との発言を頂きました。近藤昌登氏(株式会社千代田テクノル関西業務課) よりは、放射線の測定機関としての測定業務や保守業務、原子力分野における防災関連機器についてご紹介いただきました。花田貴彰氏(黒崎播磨株式会社安全衛生推進グループ)よりは、経験１年未満の作業者向けの対策や非定常作業対策、自律的化学物質管理を進めるため SDS を図や写真で可視化し分かりやすくした事例などを報告していただきました。

化学物質の管理に関して法令により管理する方法から、危険性・有害性が確認された全ての物質に対して、国が定める管理基準の達成を求める自律的な管理方式が導入され、産業保健活動としても今後ますます自主的に推進することが重要になると言えます。本研修会では、多くの講師より企業等の立場から、知識のみでなく自主的に活動する上で大事にしなくてはならないことを伺うことができました。参加者にとって、とても有益な研修会でありました。

研修会・学会の報告と予告

2023年度日本産業衛生学会 九州地方会学会開催報告

大　神　　明
（産業医科大学 産業生態科学研究所
作業関連疾患予防学 教授）

2023年11月11日、産業医科大学ラマツィーニホールにて日本産業衛生学会九州地方会学会を開催いたしましたのでご報告いたします。

学会準備を進めている段階ではまだ新型コロナウイルス感染症対策の最中でしたので、今回の九州地方会は１日開催でコンパクトに実施しました。

当日は144名の現地参加があり、一般講演10題、教育講演２題、特別講演１題のプログラムで行われました。一般演題では、医師、保健師、薬剤師、心理士、理学療法士といったバラエティに富んだ職種から様々なテーマでご発表いただき、活発な質疑応答が交わされました。産業保健の話題を会員間で議論することにより、九州地域における産業保健の振興と最新知識の普及に貢献することが出来たと思います。

教育講演においてはお二人の先生からご講演を賜りました。１題目は「化学物質の自律的管理　新たな規制が照らし出す化学物質管理の現状と課題」と題して産業医科大学 産業生態科学研究所 所長の上野 晋先生よりご講演いただき、化学物質管理について最新の状況をご説明・解説いただきました。フロアからの質疑では実際の現場での課題を踏まえたディスカッションが行われ、いよいよ本格化する化学物質の自律的管理に向けて注目の高さを改めて感じました。２題目は「産業保健分野における AI 革命：労働者の健康と生産性を向上させる IoT の活用について 」と題しまして、福岡産業保健総合支援センター 所長の筒井保博先生よりご講演をいただきました。工学系出身の先生ということで理論的な部分の解説も含めて、今話題となっている AI と IoT についてご解説いただき、11月に発表された最新モデルである GPT-4 Turbo についての話題まで触れていただきました。

特別講演では元日本テレビアナウンサーの大神 いずみ氏より「聴く話術～その目線の高さで伝える言葉」についてご講演いただきました。コミュニケーションを図る上でどのような技術が大事か、について相手の目をみる、話をなるべく遮らないといった例など、普段の産業保健活動にも参考になる内容をお話しいただきました。

今回は残念ながら諸般の事情を鑑み懇親会の開催は見送ることにいたしましたが、昼休憩の際に交流ティータイムを設け、歓談できる機会を設けました。多少なりとも、学会会員間の対面による交流を促進することが出来たと思います。

学会のプログラム終了後に引き続いて地方会総会を開催し、議事次第に沿って会議が行われた。

最後に、今回の開催にあたりましてご協力いただきました研究所の皆様、および協賛をいただきました北九州観光コンベンション協会や各企業外労働衛生機関の皆様方にこの場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

2024年度九州地方会学会のご案内（第２報）

谷 口 奈 央
（福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野）

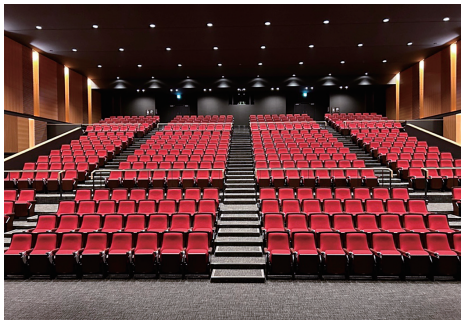
会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、2024年度の地方会学会は、歯科保健部会を代表して福岡歯科大学口腔保健学講座で担当させていただくことになりました。本学は2022年に創立50周年を迎え、記念事業の一環として約550席収容の大ホールを備えた50周年記念講堂が建てられました（写真）。歯科保健部会が初めて担当する学会にふさわしく新しい設備での現地開催とさせていただきます。そして、新しい内容にも挑戦します。七隈線賀茂駅から徒歩10分の医科歯科総合病院に隣接し、健康づくりに丁度いい距離です。教育講演、特別講演、ランチョンセミナーなどの内容につきましては、現在鋭意準備を進めているところです。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

記

2024年度九州地方会学会

会　期：2024年11月16日（土）
会　場：福岡歯科大学　50周年記念講堂
（福岡市早良区田村2-15-1）
学会長：谷口　奈央（福岡歯科大学 口腔保健学講座
口腔健康科学分野 教授）
参加費：3000円（会員），4000円（非会員）
懇親会：未定
一般演題募集：2024年７月頃に学会のご案内をし、演題締切を2024年９月下旬に予定しています。
事務局：福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野
〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話092-801-0616（担当: 牧園，受付10:00～15:00）



交通案内略図

理 事 会 報 告

2023年度 第２回九州地方会理事会

2024年１月31日（水）17:00～18:10、オンラインにて行われた。

主な議題と議論は次の通りです。

議題：

１）2023年度第１回理事会議事録要旨について

２）2023年度事業・決算報告・会員数について

部会の活動として、１月20日に産業医部会と産業保健看護部会合同での研修会が開催されたことが、例年と異なる形での開催ということで説明がなされた。

会員数については、2022年度に比べて、50名近く増加。福岡で増えているが、沖縄でも増加した。福岡県で500名、他の県で100名、全体で1000名の会員数の壁があるように見えるが、福岡県では、その500名の壁を越えたことになる。九州で開催される100回の記念大会に向けて、より会員数増の努力が求められる。

３）2024年度事業計画・予算案・体制について

事業計画は、本部作成の100周年を見据えたミッションに基づいて、九州地方会から６つの重点活動項目を定めていることが報告され、その他の課題について意見を求めた。

「大学や地域での取り組み（助成金）」については、各県における活動の契機になるとの発言があった。産業衛生学会とは別に各県で活動している産業看護に関わる人たちに産業衛生学会の存在を知ってもらう機会になる。「地方会学会参加者増への取り組み（優秀演題賞の設定）」は、実施責任者は地方会（会長：堀内）として、副賞は外付けHDなどを検討することとなった。

４）学会賞・奨励賞受賞者について

2024年度の受賞者が報告された。

報告事項：

１）学会本部関係・情報提供

２）2024年度地方会学会

11月での開催。ポスターの応募も検討しているとのこと。

３）2025年度地学会

秋の開催。全国協議会の日程を考慮し、決定するとのこと。

４）第100回日本産業衛生学会学術総会

場所：小倉駅の北九州国際会議場

日程：次の①又は②のいずれかを検討しているとのこと。

① 2027年５月26日（水）～29日（土）

② 2027年 5 月19日（水）～22日（土）
記念大会開催に向けて、これから行われる 3 回の学術総会での情報収集や学術総会での実施企画を募っていく必要があり、地方会理事会の協力が必要。

5）その他
来年度は選挙の年なので、 5 月をめどに選挙管理委員会の体制づくりが必要。

編集後記

九州の人口は1,280万人で（全国シェア10.2%）、面積やGDP など各種経済指標も全国の約10%を占めており、「1割経済」と呼ばれ、九州の域内総生産額は約48兆円で、世界29位のオーストリアの経済規模と同程度と言われています。

九州の産業は、戦前から戦後にかけては北九州工業地帯や筑豊炭田に代表される重化学工業が中心でしたが、石油ショックなどをきっかけに、その構造は大きく変化し、1980年代にはシリコンアイランド、1990年代にはカーアイランドと言われ、半導体産業や自動車産業の集積が進んできました。最近では、台湾企業である TSMC が熊本県に進出するなど、シリコンアイランドも新たなフェイズに移行しつつあるようです。九州は、工業だけではなく、南九州は畜産業などの一次産業も盛んですし、九州中に有名な温泉地、島々が多くあるため、近年の外国人旅行者の増加により観光業も「再び」盛り上がりつつあります。このように九州の産業構造には、九州に特有の特徴があります。産業構造の影響を受ける産業保健活動は、当然ながら地域ごとに「相違」が生じます。その「相違」を活かし、「相違」から学び、「相違」に基づく知見や経験を発信し、共有する場となることも地方会活動の重要な役割だと思います。

本号では、斉藤功先生の巻頭言、多様なバックランドの新入会員の自己紹介、四部会活動報告、令和 5 年度九州地方会学会開催報告が掲載されています。寄稿いただいた原稿の中には、大分県独自の健康優良企業の認定の取り組み、九州拠点企業を対象とした歯科保健活動に関する調査、など、九州に特徴的な記述もありました。九州地方会では、これまで会員向けに研究助成を公募してきましたが、応募が少ない状況でした。多様性が重視される昨今において、地域の影響を強く受けた活動は多様性につながる大切なシーズです。次年度の研究助成が、九州に特徴的な草の根の産業保健活動、研究を発信する機会となることを願っています。

（江口　尚）

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行　2024年 2 月29日

編集正責任者：堀内　正久（鹿児島大学）
編集副責任者：江口　　尚（産業医科大学）
編 集 委 員：青柳　　潔（長崎大学）
彌冨美奈子（株式会社ＳＵＭＣＯ）
大神　　明（産業医科大学）
加藤　貴彦（熊本大学）
小田原　努（ヘルスサポートセンター鹿児島）
黒田　嘉紀（宮崎大学）
斉藤　　功（大分大学）
住徳　松子（アサヒビール株式会社）
中村　幸志（琉球大学）
藤野　善久（産業医科大学）
森　　晃爾（産業医科大学）

（編集事務局連絡先）
〒890-8544　鹿児島市桜ヶ丘８－35－１
鹿児島大学医歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL（099）275-5289　FAX（099）265-8434
E-mail: masakun@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp